

ミツオカ オリジナルカー

小さいから、できることがある。



富山県推奨
とやまブランド

厳正な審査を経て

富山県内外の有識者で構成する「富山県推奨とやまブランド」育成・認定委員会が、「高い品質と信頼性・安全性」、「オリジナリティ」、「富山らしさ」、「市場性」、「将来性」の5つの基準で品目を評価し、厳正な審査を経て、「富山県推奨とやまブランド」の認定品を決定しています。

富山県の極上の産品

「富山県推奨とやまブランド」は、魅力ある富山県産品の中でも、とくに自信を持って誇れる極上の産品です。豊かな自然と歴史、そこで培われた人々の知恵や文化を「とやまブランド」の魅力と結びつけ、「富山県」の地域イメージとして国内外に発信しています。

富山県推奨とやまブランド
「ミツオカ オリジナルカー」認定事業者

株式会社光岡自動車
富山県富山市掛尾町508番地の3
TEL.076-494-1500
<https://www.mitsuoka-motor.com>



富山県推奨
とやまブランド

人と風土に、ストーリーがある
とやまブランド物語 VOL.19

富山県知事政策局 広報課
TEL.076-444-3134
<https://www.toyama-brand.jp/>



夢のあるクルマを創りたい。

「テストコースは立山山麓」

北アルプスの山々を覆っていた雪がようやく解け始めた春、山麓のワインディングロードを一台のクルマが疾走していた。この年、2021年の6月にデビューを控えた新型SUV、ミツオカ「バディ」の試験走行だ。

「バディ」は、富山市に本社を置く自動車メーカー、光岡自動車がつくったオリジナルカー。

専用のテストコースを持たず、大手メーカーのように専属テストドライバーもいない同社では、開発にあたったスタッフがドライバーを務め、

工場敷地内の通路や富山県内の公道を走ってテストデータを集める。

ミツオカが開発するオリジナルカーは、自社製の車台に他社製エンジンを搭載したフルオリジナルモデルと、他メーカーから供給されたベース車を分解し、オリジナルの内外装パーツで独自のデザインに仕上げたカスタムモデルの2タイプ。

主力であるカスタムモデルは、ベース車から走行性能や安全性を受け継ぐが、ベース車とは異なる個性的な外観フォルムを持つのが特徴だ。「夢のある独創的なクルマを届けたい」という思いが、ミツオカのクルマづくりの根底

にあります」

「バディ」のデザインを担当した開発課長の青木孝憲あおき たかひささんは目を輝かせる。

「国内10番目の乗用車メーカー」

光岡自動車の創業は1968年。鍍金塗装と自動車整備からスタートし、中古車販売業を営むかたわら、クルマづくりの夢に挑んできた。

50ccエンジンのゼロハンカーやクラシックタイプのカスタムカー「BUBUクラシックSSK」、「ビュート」などの開発を通して得たノウハウが、その後のオリジナルカー開発の基礎となる。

1994年に

発表したオリジナルスポーツカー

「ゼロワン」は、

同社が自動車メーカーとなる突破口を切りひらいた。

当初の認定は生産規模が限定される「組立車」。量産を前提とした型式認証を目指していた同社は、その後も当時の運輸省との折衝を粘り強く続けた。

「当時、新規参入の小さな会社が、自動車メーカーとなるには高いハードルがありました。本田技研工業が4輪車に参入した1963年から33年間、日本に新しいメーカーが現れなかったことでもその困難さがわかるでしょう」

光岡自動車の創業者、現会長の光岡進みつおかすすむさんは当時の苦労を振り返る。

1996年、幾度もの厳しい審査を突破して、「ゼロワン」は晴れて新型車として型式認証を受ける。光岡自動車国内10番目の乗用自動車メーカーとなった瞬間だ。

「4輪車メーカーでは国内最小。大手自動車メーカーとは比較できないほど小さな組織です。小さいからこそできることがある」と考えて、どこにも真似のできないクルマづくりに取り組んできました」（光岡会長）

オリジナルカーの開発製造を担う部門の従業員数はわずか80名。製造工程の大半が手作業のため生産台数にも限界がある。しかし、小規模メーカーならではの自由なものづくりの空気は、独創的なデザインを生む母体となっている。



豊かな自然に鍛えられ
オリジナルカーは
確かなクオリティを備える。

北アルプスを背景にしたミツオカ「バディ」。完全受注生産のため納車までに約2年を要する。「それでも待つ」というファンが少なくない。



オリジナルカーの先駆けとなったミツオカ「ゼロワン」。

本当に愛してくる人にだけ届きたい。



青木さんが描いたオリジナルカーのアイデアスケッチ。イメージのスピード感が失われないようフリーハンドで描く。

「誰からも愛されるクルマは創らない」

これまでにミツオカが世に送り出したオリジナルカーは、販売終了したものを合わせて「バディ」まで全53モデル。新型車を発表するたびに、その挑戦的で独創的なスタイルは全国、世界から注目され、モーターファンの熱い視線を集めてきた。

「自分だったらどんなクルマに乗りたいかを、何よりも大事にしてスタイリングを考えます。誰にでも受け入れられるクルマではなく、本当にそのクルマを愛してくれる人だけに届けたい。そんな思いで大手メーカーがつからない独自のデザイン、世界でただひ

とつのオリジナルリテイを求めています」
開発課長の青木さんは、デザインへのこだわりをそう話す。

2001年東京モーターショーに出展したコンセプトモデル「オロチ」は、伝説の大蛇ヤマタノオロチを思わせる刺激的なデザインが来場者の度肝を抜き、購入希望が殺到した。その後、同モデルは国土交通省の型式認定を取得し、2006年より市販化。その年の「あなたが選ぶカ!

光岡自動車開発課の青木孝憲課長



点溶接の連続で、歪みのないボディを形づくる。



何度も塗装を重ねながら、こだわりの色を再現する。

「クラフツマンシップあふれる生産現場」

オブ・ザ・イヤー《スポーツカー部門賞》を受賞している。富山県の伝統工芸、井波彫刻や越中和紙とコラボレートしたコンセプトカー、杉から抽出した新素材「改質リグニン」を採用した試作車など、いずれもプロトタイプではあるが、既成概念に囚われないミツオカの挑戦はさまざまな分野に刺激を与えている。

ミツオカのオリジナルカーは、イタリアのカロッツェリア（自動車工房）を思わせるクラフツマンシップあふれる工場から生まれる。

生産現場で働くスタッフは約60名。钣金、溶接、研磨、塗装、内装などの技術を持つ熟練のスタッフが、ハンドメイドで

車両を1台ずつ生産している。横野工場の工場長、田林寿規（なはむら）さんはミツオカの工場を「巨大な钣金整備工場」にたとえる。

「工場見学に来た大手メーカーの人は、オートメーション化された生産ラインのない工場の姿を見て驚きます。昔ながらのクルマづくりの懐かしさを感じる人もいます」
何人もの手による塗装ムラを防ぐため1人で1台の塗装を仕上げ、溶接の熱で歪みが生じないように溶接にあえて時間をかける。手作業の現場ならではのノウハウだ。

「ハンドメイドのクルマづくりは職人の技術と経験と勤が頼り。生産効率は決して高いとはいえませんが、人の手がつくりあげる温もりと品質にこそ価値があると思っています」



エンブレムを装着し、クルマに魂を吹き込む。



高い品質は、1台ごとの丁寧な調整から生まれる。



現在3代目となったミツオカ「ビュート」。
初代発売から30年以上を経た今も、個性的なデザインは色あせていない。

ミツオカのオリジナルカーづくりを背後で支えているのが、工業県富山の産業風土だ。
近代以降、水力発電によって得られる豊富で低廉な電力を求めて、富山県には紡績・化学・金属・機械を始めとする

る工場が数多く立地した。その産業基盤は現代にも受け継がれ、日本海側屈指の工業集積を誇るものづくり県となっている。

富山県には金属加工、精密加工、エレクトロニクスなど技術集積があり、工作機械メーカーやガラス、ゴム、プラスチックなどの素材メーカーも立地している。

本州のほぼ中央という地理的好条件から様々な資材が調達しやすく、自動車工業に関連する多彩な分野との技術協力も容易である。

「オリジナルカーで培った技術は、婚礼・葬祭用途の特殊車両や小型3輪EVなどの開発にも活かしています。これからも富山県生まれの自動車メーカーであることを誇りに、夢のあるクルマづくりを続けていきたいと思っています。」



2018年発表のミツオカ「ロックスター」。自由で楽しさがあふれるスタイリングが人気を集める。

「自身も愛してやまないミツオカ・オリジナルカーの前で、光岡会長は顔をほころばせた。」



わが子を慈しむように、たっぷりの愛情を注いで、1台1台を完成させる。

温もりあるクルマを人の手でつくる。

オリジナルカーの高い品質を生む職人の技と美意識は、社内でも受け継がれ、世代を重ねるたびに磨かれている。光岡自動車は、そんな職人たちの手の温かみを大切に、品質のさらなる向上を図っている。

「富山の風土が育むものづくり」

「ミツオカのクルマづくりは、県民性でもある勤勉でフロンティア精神あふれるスタッフに支えられています。自由で大胆なデザイン発想は、自然豊かな富山の地じやなきや

生まれたいと思っています」
光岡会長は誇らしげにそう語る。



愛車ミツオカ「ヒミコ」の前に立つ光岡進会長

message

唯一無二のクルマづくり

きりやま としき
桐山 登士樹さん
富山県総合デザインセンター所長



イタリア車という魅力的なデザインを生み出してきたカロッツェリアが思い浮かびます。イタルデザイン、ピニンファリーナなど一時期、世界のカーデザインを牽引していました。それ以上に凄いことを実践しているのが光岡自動車です。日本で10番目の自動車メーカーですが、他のクルマメーカーとはまったくアプローチが異なります。富山のモノづくり文化を最大限に生かし、唯一無二のクルマづくりに邁進している夢の会社だと思います。

【関連施設】



立山連峰を一望する田園地帯に建つ開発・製造拠点。ショールームも併設され、多彩なミツオカ・オリジナルカーの個性豊かな表情に触れることができる。過去には工場見学や全国ユーザーを招待したユーザーミーティングも開催。

光岡自動車横野工場

- 富山県富山市婦中町横野100
- 北陸自動車道富山ICより車15分
- 076-465-2833
- 10:00~18:00
- 同社カレンダーによる
- <https://mitsuoka-motor.com/dealer/mitsuoka-toyama/>